

富山県立大学構内の高等菌類調査

橋屋 誠*・井口 潔**・鈴木 敏彦・平野 嘉孝・川崎 正志・佐藤 幸生

(工学部教養教育)

富山県の生物多様性の解明および本学の環境教育における生物的側面、生物群集の理解に資するために、本学構内において高等菌類を調査した結果、26科49属103種、224点の標本が得られた。今回の調査で、ワカクサタケ、ヤマジノカレバタケ、アミガサホウライタケ、シロカレハタケ、サビイロオチバタケ、ヒメヒトヨタケ、ナヨタケモドキ、コクサウラベニタケ、アイバクロハツ ss *K. Iguchi*、*Russula cf. illota* Romagn.、ハイムラサキタンメンタケ(池田仮称)、チヂレタケ、ミノタケ、*Gelatinipulvinella astraeicola* Hosoya & Y. Otani、*Phacidium* sp. の15種の富山県初記録(北陸地域初記録を含む)の高等菌類を記録した。

キーワード：生物多様性、高等菌類、富山県初記録

1. はじめに

富山県は自然が豊かな県として知られており、動物や植物に関する調査研究は比較的進んでいて、「富山県植物誌」等の成果が報告されている。しかし、高等菌類に関する調査は極めて少なく、本県における生物多様性の解明、あるいは生物資源の探索・利用のためには、高等菌類の調査が緊急の課題である。本研究は、富山県立大学学長裁量経費教養教育重点領域研究遂行支援課題「富山県における生物多様性の解明と生物群集の理解に向けて一本学における植物相と菌類相の調査」の一環として実施したものであり、富山県の生物多様性の解明および生物資源探索・利用に資すると共に、本学における環境教育の生物学的側面の充実を図ることを目的としている。

ところで、高等菌類のフロラ調査の場合、調査地で発生した子実体(きのこ)を採集し、記録する方法がとられることが多い。しかし、きのこの発生は調査地の季節(気温や降水など)によって

左右され易く、1度の調査ではその場所のフロラを調査できたとは言えず、何度も同じ調査地へ出かける必要がある。

現在、富山県中央植物園では、友の会きのこ部会員とともに富山県内各地で高等菌類のフロラ調査を行っており、現在これまでに集められた標本のリストを作成中である。しかし、富山県内は広い範囲同一の場所を定期的に調査した例はまだ少なく、南砺市縄ヶ池 2006(橋屋 未発表)、射水市中太閤山薬勝寺池公園 2008(友の会きのこ部会 未発表)しかなく、これも1ヶ月間隔の調査となっている。本報告では、比較的調査し易い富山県立大学構内で、より短い間隔で調査を行った。

2 調査方法

調査地は、富山県射水市(旧小杉町)黒河にある富山県立大学構内で、構内を6つのエリアに分け(図1)、2009年7月から11月まで5ヶ月間、ほぼ半月毎に計10回の調査を行った。調査は、エリア毎に見られたきのこを全て記録・採集し、採れたきのこは富山県中央植物園において60℃送風で乾燥し、乾燥標本にした。標本はスチロール製

* 富山県中央植物園

** 菌類懇話会

の小箱に入れて、富山県中央植物園に保管されている。調査は毎回橋屋が行ったが、時には植物園友の会きのこ部会員などが加わって行った。また8月1日、9月4日、9月25日には井口も加わり調査を行った。

3. 調査地の特色

調査地である富山県立大学の敷地は、射水丘陵の北端に位置し、近くを北陸道が通るなど古くから人間生活が営まれており、丘陵地であるが里山に近い環境であったと思われる。大学構内には開学以前よりあったと思われるモミの巨木が見られる反面、富山県には自生しないシラカシやゲッケイジュなども植栽されている。構内北西部の短期大学部校舎付近は建物完成から約50年経っており、植栽された樹木も大きく生育しており地上には蘚苔類や下草も育っているなど、比較的安定した環境である。他方、構内東部と南部の校舎は約20年前に建てられたもので、校舎の縁部が芝生に覆われ、ここにシラカシなどが植栽されている。

4 結果および考察

今回の調査では、224個の標本が採集でき、26科49属103種に同定出来た(分類は今関・本郷1987, 1989を中心に、一部新しい知見を入れて配列した)。この中にはワカクサタケ、ヤマジノカレバタケ、アミガサホウライタケ、シロカレハタケ、サビイロオチバタケ、ヒメヒトヨタケ、ナヨタケモドキ、コクサウラベニタケ、アイバクロハツ ss K. Iguchi、*Russula* cf. *illota* Romagn.、ハイムラサキタンメンタケ(池田仮称)、チヂレタケ、ミノタケ、*Gelatinipulvinella astraeicola* Hosoya & Y. Otani、*Phacidium* sp. など15種の富山県初記録(北陸地域初記録を含む)の高等菌類が記録できた。

調査地の概要

大学構内を6つのエリアに分けて調査を行った。各エリアで見られた特徴あるきのこの種名と、ここに生育する主だった樹木の紹介をする。

エリア1

短期大学部の校舎付近で、造成されて約50年経つため植えられた樹木も大きく成長している。地表面は蘚苔類やイネ科の草本に覆われ湿度も高い。また外生菌根を作る樹種も多く、このエリアでしか見られない樹種としてはモミやマテバシイがある。これらの樹下ではアカモミタケやアイバシロハツ、ニオイワチチタケなど多くの外生菌根形成菌が見られた。他にこのエリアで外生菌根を作る樹種にはコジイやヒマラヤスギがある。このエリアで採集された標本は73点で、今回の調査で得られた全標本の32.6%にもなった。これはエリア1が高等菌類の生育に適しており、このエリアの多様性が高いことを示すものと思われる。エリア1で得られた標本のうち富山県初記録になる種類には、ワカクサタケ、サビイロオチバタケ、シロカレハタケ、コクサウラベニタケ、ハイムラサキタンメンタケ(池田仮称)、ミノタケ、葉ふるい病菌の一種がある。またエリア1でしか記録されなかった種類としては、ウスヒラタケ、アカチシオタケ、キヌモミウラタケ、モチゲチチタケ(橋屋仮称)、ヒメキクラゲがあげられる。

エリア2

短期大学部の校門付近で、調査地の中でより樹木が茂っており湿度も高いため、当初このエリアのきのこが一番多く見られるのではと思われた。しかし、調査地の面積が小さいためかこの得られた標本は30点で、全標本数の13.3%にしかならなかった。このエリアのみで見られた種類には、アシボソトマヤタケ、キヒダタケ、オリーブサカヅキタケ、チヂレタケ、ナヨタケモドキ、ヒメヒトヨタケで、後の4種はいずれもリターを分解する腐生菌である。

エリア3

短期大学部の北側にあたり、他のエリアには見られないナラガシワ(ブナ科)が3本あること、茶室が建てられている付近は草本の刈り込みもなく湿度も保たれていることなどから、外生菌根形

成菌には適した生育場所と思われる。エリアの西端にはモウソウチクも植栽されているが本数が少なく、モウソウチクの落ち葉によって林床が覆われるまでには至っていない。アカマツが見られる唯一のエリアでもあり、ここではマツ属の樹木と外生菌根をつくるヌメリイグチなどが採集されている。このエリアでしか見られなかった種には、ハダイロガサ、アミガサホウライタケ、ヒメコナカブリツルタケ、ヒメヒガサヒトヨ？、キウロコタケ、ザラツキカタカワタケ、ホコリタケがある。

エリア4

太閤池の南側で大学校舎の間の狭いエリアである。エリア西側はキリやハナミズキが見られる草原で、草の刈り込みが行われるため比較的乾燥しており、この場所ではきのこはまったく見られなかった。エリア東側には大学の厚生棟があり、この建物で影になる部分はやや湿度が保たれる上に、北側にある太閤池の法面にはクヌギやコナラが見られることから、これらと外生菌根を作るきのこが採集された。このエリアでのみ見られた種類には、キヌハダトマヤタケやオオミアセタケ？がある。このエリアで採集したすべての標本は14点で、これは全体の6.3%にしか過ぎなかった。この理由としては、標本が得られた場所も西日の当たる草原で、地表が乾燥するためではないかと想像される。

エリア5

大学校舎の東側にあたり、車道に沿って全面に芝生が張られ、一列にシラカシが植栽されている。またエリア北端の一部にはコナラも植えられている。全体が新しい造成地であり、表面を覆う芝生も定期的に刈り込みがされるため、地表は乾燥する傾向にある。しかし、雨が続くとシラカシやコナラと外生菌根を作るテングツルタケやアシボソトマヤタケ、フウセンタケモドキ、フウセンタケ属の一種、ニオイワチチタケなどが発生した。エリア5で得られた26点の標本中、外生菌根形成菌は20点でこの割合は76.9%にもなり、全エリアの

中でもっとも高かった。今後、植栽された樹木が成長すると、樹陰の芝は衰弱すると思われるが、土中の湿度はより保たれるため、現在以上に外生菌根形成菌が発生する可能性があるものと思われる。

エリア6

大学校舎の南側にあたり、エリア5と同じように芝生にシラカシなどが植栽されている。しかし植栽の時期がブロック5より早いいためかシラカシがより広く地面を被覆しており、この樹下は湿度も高く保たれている。この樹下ではアセタケの仲間が6種も採集され、他のエリアでは見られないアンズタケも採集された。エリア6の西側には芝生に覆われた築山があり、ここには記念樹としてクロマツが植栽されていて、これと外生菌根をつくるアカハツが採集されたほか、この芝生上では他のエリアでは見られないアカヤマタケ属の一種やシバフウラベニタケが見られた。上記以外にこのエリアにのみ見られた種類は、外生菌根菌のザラツキトマヤタケやミナカタトマヤタケ？、アセタケ属の一種②、ワカフサタケ属の一種、コウジタケ、チャイボタケ、腐生菌のコザラミノシメジ、ハナウロコタケ、クロアシボソノボリリュウタケ、ササクレヒトヨタケなどがある。

5 全体を通して

高等菌類の発生は、気温とともに降水量にも大きく左右される。調査日の数日前に雨が降ればきのこの発生も多く、数日間乾燥が続けば発生は少なくなる。調査地のエリア4、5、6は、周囲の校舎が建てられて約20年と、植栽された樹木もまた若いため、地面は十分に被覆されておらず芝生が発達している。またこの芝生も定期的に刈り込みをされるため、地面はより乾燥する。調査を行った2009年は、平年に較べて7月から8月中旬の気温が低く降水量も多かったため、夏季におけるきのこの発生量は多かった。しかし、8月下旬から9月にかけては降水量が少なかった。富山地方気象台の記録によれば、9月の降水量は、過去30

年の平均では230.0mmあるものが、2009年は半分にも満たない105.5mmであった。このため秋雨期に発生するきのこが非常に少なかった。この傾向は全国的で、特に中部日本以西で著しかったと思われる。今回の調査でも8月1日には69標本得られたものが、9月4日には13標本しか得られていない。また樹木が植えられてより年月が経っている短期大学部周辺のエリア1・2・3で得られた標本は合計144点で、これは全標本の約2/3に当たる64.3%を占める。これから大学構内においてエリア1・2・3はより高等菌類が多く見られる地域であると言えるだろう。

6 特筆すべき種類

今回の調査で見られた種類の中で特筆すべきものを列挙する。なお、文中の番号は中央植物園に保管されている高等菌類の標本番号を示す。

ヤマジノカレバタケ (キシメジ科)

Gymnopus biformis (Peck) Halling

今回の調査ではエリア1・3・5で、8月～9月に、地表のリターから発生しており、今回の調査では総数8個の標本が得られた。腐生菌であり、草本のリターなどから発生するため、全国的に分布するものと思われるが、これまであまり記録がない。これは本種の所属するモリノカレバタケ属の分類が難しく、また本種が日本の文献にはほとんど紹介されていないためと思われる。今回の記録が北陸地域では初記録になる。

サビイロオチバタケ (キシメジ科)

Marasmius fulvoferrugineus Gilliam

エリア1のみで採集された種類で、上にフジ棚のあるシャリンバイの茂みの下で見られた(No. 9708, 9872, 10046, 10181)。この場所はリターの吹き溜まりとなっており、本種の菌糸が落葉どうしをくっつけ、菌糸が淡黄色のマット状になって広がっていた。本種も記録が少ないが、これは子実体の肉眼的所見が本種と類似したハナオチバタケやハリガネオチバタケと混同して記録されて

いる可能性が高いためではないかと思われる。北陸地域の初記録になる。

アイバクロハツ (ベニタケ科)

Russula dissimulans Shaffer ss K. Iguchi

井口によって同定されたもの(No. 9739, 10199, 10217)で、大学構内ではエリア3のナラガシワ樹下で採集された。これも記録の少ない種で、今回が北陸地域の初記録になる。アイバクロハツの記録が少ない理由としては、国内でまだこの種が広く認識されておらず、クロハツに較べてややひだの間隔が狭い本種の特徴が、クロハツの変異幅としてとらえられ、クロハツとして記録されているためと考える。なお、Singer (1986)は、*R. dissimulans* についてクロハツの一亜種と見なすべきではないかとコメントしている。

チヂレタケ (コウヤクタケ科)

Plicaturopsis crispa (Pers.) D.A. Reid

2009年11月22日、大学構内エリア2の枯れた木の枝が積み上げられた中で、ソメイヨシノの枯枝上に発生した本種を橋屋が採集した(No. 10371)。また2009年11月3日には、富山市(旧大沢野町)寺家の猿倉山で、ソメイヨシノ落枝上に発生した本種を、植物園友の会きのこ部会の澤田和子氏が採集されている(No. 10323)。本種はこれまで北陸地域では採集例がなく、今年富山県で採集された上記2点の標本が北陸地域での初記録になる。

ミノタケ (サルノコシカケ科)

Trametes cervina (Schwein.) Bres.

大学構内エリア1にあるポプラ切株上で、8月1日(No. 9701)と9月4日(No. 9871)の2回採集した。本種は広葉樹枯木に生え、伊藤(1955)によれば北海道・本州に分布するとされているが、これまで北陸地域での報告はなく、今回が富山県下からの初記録になる。

葉ふるい病菌の一種

Phacidium sp.

大学構内エリア1のコウヤマキ落葉上で、2009年9月25日に採集した (No. 10187)。本種は針葉樹の葉上に微小な唇形の子実体を発生する。北陸地域では初記録になる。

ゲラティノプルウィネルラ属の一種

Gelatinipulvinella astraeicola

Hosoya & Y. Otani

大学構内エリア2において、古いツチグリの外皮裂片の内層上で、2009年8月1日に採集した (No. 9730)。微小な盤菌類の一種で、命名者である細矢 (私信) によれば、本種の分布は日本全国で、これは生育する基質であるツチグリの分布に一致すると言う。本種はこれまで北陸地域での記録がなかった。今回の記録が初記録になる。

カヤバノクヌギタケ (キシメジ科) (池田仮称)

Mycena sp.

大学構内エリア1のマテバシイ樹下に生えたイネ科草本の株上で、7月5日に採集した (No. 9485)。側シスチジアは長いフラスコ型で、中に赤色内容物を含んでおり、これと他の形態特徴と合わせて池田 (2005) のカヤバノクヌギタケ (仮称) と同定した。池田 (2005) は本種の産地として石川県のみを上げているが、橋屋はこれまで同種と思われる標本を富山市婦中町新町でも得ている (No. 8190)。本種は上記のような特筆的な特徴があるので、今後は本種の所属を明らかにして、新種であることが明らかになれば新種記載したく考える。

テングツルタケ (テングタケ科)

Amanita ceciliae (Berk. & Broome) Bas

今回の調査ではエリア1・2・3・5で、比較的気温の高い7月～9月に、シラカシなどブナ科の樹木の下から発生しており、今回の調査で記録した種の中ではもっとも標本数の多い11個が得られた。これは全標本中の4.9%にあたる。本種はブナ科の樹木と外生菌根を作っているが、本来シラカシは富山県内には分布しておらず、他県より持

ち込まれて植栽された樹木であるので、本種は他地域から移入されたものである可能性もある。しかし、本種は県立大学に近い薬勝寺池公園でも自生のコナラ樹下で採集されているため、この地域では以前から多く生育している種なのかもしれない。

アシボソトマヤタケ (フウセンタケ科)

Inocybe acutata Tak. Kobay. & Nagas.

大学構内エリア5の植栽されたシラカシ樹下で、2009年8月1日に採集した (No. 9755)。アセタケ属菌は外生菌根を作るので、相手は県内には自然分布しないシラカシと思われる。本種は全国的にも採集例が少なく、富山県内では橋屋 (2004) で3ヶ所の記録があるものの、北陸地域の他県では記録がない。しかし、富山県の採集地も近年に樹木を植栽した場所であるため本種は他所から移入した可能性もある。構内には多数のシラカシが植栽されているが (エリア5、6など)、本種が採集されたのは1本のシラカシ樹下であった。今後本種は、この場所から消滅するのか、逆に分布を広げて行くのかは非常に興味深い。

オオワライタケ (フウセンタケ科)

Gymnopilus junonius (Fr.) P.D. Orton

大学構内エリア1にあるコジイの根元で、9月25日 (No. 10176) および10月2日 (No. 10212) の2回採集した。本種は、常緑性ブナ科樹種であるシイやカシ類、落葉性ブナ科樹種であるミズナラ・コナラなどの大径木の根際などに発生することが多く、県内では各地で見られるものの、その多くは神社境内や植生の安定した場所に発見される。県立大学付近の潜在植生はシイ・カシなどの常緑広葉樹林であったと思われる、付近の日の宮神社などにもその片鱗が見られる。大学構内のオオワライタケもこれら樹木と共に生活していた可能性が高い。

アカモミタケ (ベニタケ科)

Lactarius laeticolor (S. Imai) Imaz. (nom.

nud.)

大学構内エリア1のモミ樹下で、2009年11月6日に採集した(No.10332)。本種が外生菌根を作っているモミは独立樹であるが、本種以外にも、*Russula cf. illota* Romagn. (No.9721,9825)、アイバシロハツ(No.9491,9516)、アセタケ属の一種①(No.10333)、フウセンタケ属の一種(No.10334,10368)など複数種のきのこが外生菌根を作っている可能性がある。モミは日本固有種で、本州以南の温帯域に分布するが、県内では北西部に多く見られるものの、他では社寺林などに点在しているのみである。構内のモミもその樹高や胸高直径などから考えて、開学以前より同地にあったものと思われるので、このモミを保存することは大学構内の菌類多様性を保つ意味でも重要であると思われる。

謝辞

本研究は、富山県立大学学長裁量経費教養教育重点領域研究遂行支援課題「富山県における生物

多様性の解明と生物群集の理解に向けて」および富山県高等教育振興財団の助成を得て行ったものである。また、本研究を遂行するにあたり、富山県中央植物園友の会のきのこ部会会員のご協力を得たことを記して感謝する。

引用文献

- 池田良幸. 2005. 北陸のきのこ図鑑. 394pp. 橋本確文堂, 金沢.
- 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑(I). 325pp. 保育社, 大阪.
- 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑(II). 315pp. 保育社, 大阪.
- 伊藤誠哉. 1955. 日本菌類誌 第二巻第四号. 450pp. 養賢堂, 東京.
- 橋屋 誠. 2004. 富山県高等菌類資料(2). 富山県中央植物園研究報告9:65-71.
- Singer, R. 1986. The Agaricales in Modern Taxonomy. 4th. and rev.ed. 981pp. +88pls. Koeltz Scientific Books, Koenigstein.

The investigation of higher fungi

in Toyama Prefectural University

Makoto Hashiya*, Kiyoshi Iguchi**, Toshihiko Suzuki, Yoshitaka Hirano,
Masashi Kawasaki and Yukio Sato

Department of Liberal Arts and Sciences, Faculty of Engineering

* Botanic Gardens of Toyama,

** KINRUIKONWAKAI

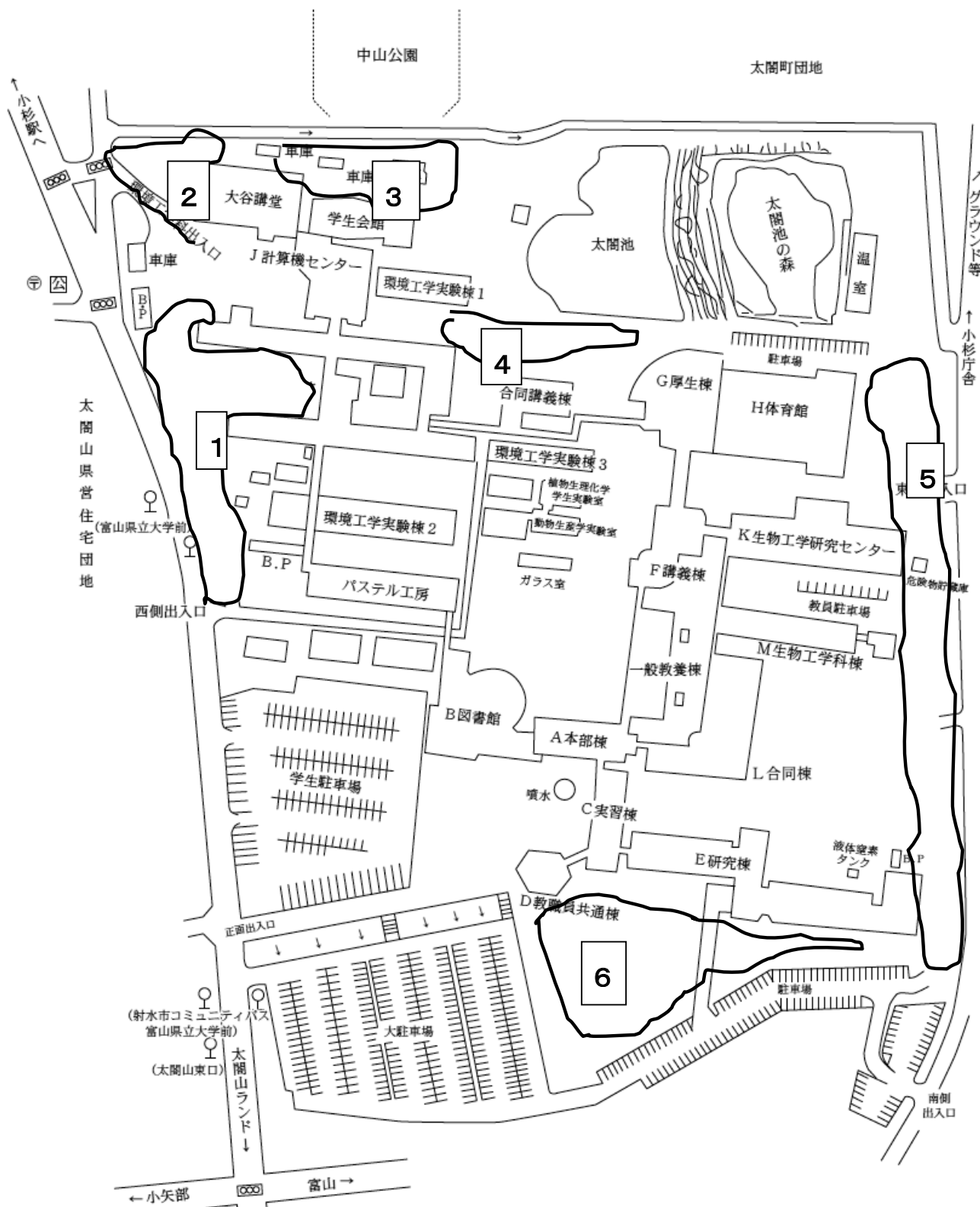


図1 調査地のエリア

表 富山県立大学構内の高等菌類(2009年)

種番号	和名	学名	7月5日	7月14日	8月1日	8月17日	9月4日	9月17日	9月25日	10月2日	11月6日	11月22日
1	ウスヒロタケ	<i>Pleurotus pulmonarius</i> (Fr.) Quéf.	①*									
2	ハダヒロガサ	<i>Camarophyllus pratensis</i> (Fr.) P. Kumm.			①							③
3	ワカウサタケ	<i>Hygrocybe psittacina</i> (Schaeff.) P. Kumm.		⑥				⑥				
4	アカヤマタケ属の一種	<i>Hygrocybe</i> sp.										
5	オオキツネタケ	<i>Laccaria bicolor</i> (Maire) P.D. Orton		①②③	①②⑤	②③		②	①②			①②
6	カレバキツネタケ	<i>Laccaria vinaceoavellanea</i> Hongo										
7	カヤタケ属の一種	<i>Clitocybe</i> sp.										①
8	ヒナヒロガサ	<i>Rickenella fibula</i> (Bull.) Raitheif		④	①				①	①		①③
9	オリーブサカズキタケ	<i>Gerronema nemorale</i> Har. Takah.			②							
10	ヨザラミンソメジ	<i>Melanoleuca melaleuca</i> (Pers.) Murrill	⑥	⑥								
11	ヤマジノカレバタケ	<i>Gymnopus biformis</i> (Peck) Halling			①⑤	①⑤	③⑤		①			
12	モリカレバタケ属の一種	<i>Gymnopus</i> sp.			①							
13	シロホウライタケ属の一種	<i>Marasmiellus</i> sp.			①							
14	アミガサホウライタケ	<i>Marasmius brunneospermus</i> Har. Takah.		③								
15	サビイロオチハタケ	<i>Marasmius fulvoferrugineus</i> Gilliam			①		①	①				
16	オオホウライタケ	<i>Marasmius maximus</i> Hongo			①							
17	シバフタケ	<i>Marasmius oreades</i> (Bolton) Fr.			②⑥							
18	シロカレハタケ	<i>Marasmius prasiosmus</i> (Fr.) Fr.			①							
19	ホウライタケ属の一種	<i>Marasmius</i> sp.		①								
20	カヤバノクヌギタケ(池田仮称)		①									
21	アカチシオタケ	<i>Mycena</i> sp.										①
22	ニオイアシナガタケ	<i>Mycena crocata</i> (Schrad.) P. Kumm.										
23	チシオタケ	<i>Mycena filopes</i> (Bull.) P. Kumm.							①			
24	アシナガタケ?	<i>Mycena haematopus</i> (Pers.) P. Kumm.										③
25	ヒメコナカプリツルタケ	<i>Mycena cf. polygramma</i> (Bull.) Gray			③			③				
26	レンガツルタケ	<i>Ananita ocelliae</i> (Berk. & Broome) Bas	⑤	②③⑤	⑤	②	②	①②⑤	①			
27	ツルタケ	<i>Ananita vaginata</i> (Bull.) Lam. var. <i>vaginata</i>		③								
28	レンガタケ属の一種	<i>Ananita</i> sp.							③			
29	キツネノハナガサ	<i>Leucocoprinus fragilissimus</i> (Berk. & M.A. Curtis) Pat.		①								
30	シロカレカサタケ属の一種	<i>Cystolepta cystophora</i> (Malencon) Bon							①			
31	サカクレヒトヨタケ	<i>Coprinus comatus</i> (O.F. Mill.) Pers.							⑥			⑥
32	ヒトヨタケ	<i>Coprinopsis atramentaria</i> (Bull.) Redhead, Vilgalys & Coprinopsis sp.		⑥				③				⑤
33	ヒトヨタケ属の一種	<i>Coprinopsis</i> sp.			②							
34	ヒメヒトヨタケ	<i>Coprinopsis friesii</i> (Quéf.) P. Karst.										
35	ヒメヒカサヒトヨ?	<i>Parasola cf. plicatilis</i> (M.A. Curtis) Redhead, Vilgalys & Parasola cf. <i>plicatilis</i> (M.A. Curtis) Redhead, Vilgalys & <i>Psathyrella candolleana</i> (Fr.) Maire			③				③			
36	イタチタケ	<i>Psathyrella corrugis</i> (Pers.) Konrad & Maubl.			②							
37	ナコガサタケ	<i>Conocybe lactea</i> (J.E. Lange) Métrod		③								
38	キヌハダトマヤタケ	<i>Inocybe cookei</i> Bres.	④									
39	アシナガトマヤタケ	<i>Inocybe acutata</i> Tak. Kobay. & Nagas.			⑤							
40	コブアセタケ	<i>Inocybe nodulospora</i> Kobayasi	④		⑤				⑥			
41	アシボトマヤタケ	<i>Inocybe calospora</i> Quéf.							②			
42	カブアラセタケ	<i>Inocybe asterospora</i> Quéf.	①⑥									
43	オオミアセタケ?	<i>Inocybe cf. macrosperma</i> Hongo			④				④			
44	ミナガトマヤタケ?	<i>Inocybe cf. glabradisca</i> P.D. Orton			⑤⑥							
45	ザラツキトマヤタケ	<i>Inocybe dulcamara</i> (Alb. & Schwein.) P. Kumm.							⑥			
46	アセタケ属の一種①	<i>Inocybe</i> sp.1		④	⑥	⑤⑥	⑤	②⑥				①
47	アセタケ属の一種②	<i>Inocybe</i> sp.2		⑥		⑥	⑥	⑥				⑥
48	ワカフタケ属の一種	<i>Hebeloma</i> sp.										
49	アウセンタケモドキ	<i>Cortinarius pseudopurpurascens</i> Hongo							⑤			⑤
50	アウセンタケ属の一種	<i>Cortinarius</i> sp.										①

* 数字は調査地のエリアを示す

表 富山県立大学構内の高等菌類(2009年)(続き)

種番号	和名	学名	7月5日	7月14日	8月1日	8月17日	9月4日	9月17日	9月25日	10月2日	11月6日	11月22日
52	オオワライタケ	<i>Gymnopilus junonius</i> (Fr.) P.D. Orton							(1)*	(1)		
53	ケコガサ属の一種	<i>Galerina</i> sp.										(1)
54	コサウラベニタケ	<i>Entoloma nidulosum</i> (Fr.) Quel.			①							
55	シバフウラベニタケ	<i>Entoloma pulchellum</i> (Hongo) Hongo ad. int.		⑥	⑥		⑥					
56	クサウラベニタケ?	<i>Entoloma</i> cf. <i>rhodopolium</i> (Fr.) P. Kumm.							①			
57	キヌモミウラタケ	<i>Entoloma sericellum</i> (Fr.) P. Kumm.			①			①				
58	イッボンシメジ属の一種	<i>Entoloma</i> sp.										
59	ヌメリイグサ	<i>Suillus luteus</i> (L.) Roussel							③		③	
60	アワタケ属の一種	<i>Xerocomus</i> sp.			②		⑤					
61	キヒタタケ	<i>Phylloporus bellus</i> (Masse) Corner var. <i>bellus</i>			⑥							
62	コウジタケ	<i>Boletus fraternus</i> Peck			③							
63	イグサ属?の一種	? <i>Boletus</i> sp.			③							
64	アイバシロハツ	<i>Russula chloroides</i> (Krombh.) Bres.	①	①	③	①				①		
65	クロハツモドキ	<i>Russula densifolia</i> Secr. ex Gillet	①	①	①②③		②					
66	アイバシロハツ	<i>Russula dissimilans</i> Shaffer ss K. Iguchi			③				③	③		
67	ベニタケ属クサハツ餅の一種	<i>Russula</i> cf. <i>ilota</i> Romagn.			①	①						
68	キチヤハツ	<i>Russula sororia</i> Fr.	②③	③④⑤	③④	⑥			①			
69	ニオイコベニタケ	<i>Russula bella</i> Hongo	④	①	②③⑥	⑥	②	②	②			
70	カワリハツの一種	<i>Russula cyanoxantha</i> (Schaeff.) Fr. var. <i>variata</i> Banning ex Singer ss K. Iguchi			③⑤							
71	ヨヘイジモドキ?	<i>Russula</i> cf. <i>melliolens</i> Quel.							①			
72	チギレハツ	<i>Russula vesca</i> Fr.			③	⑥						
73	ベニタケ属の一種	<i>Russula</i> sp.	①		①				③	①		
74	ニオイワチチタケ	<i>Lactarius subzonarius</i> Hongo	①	④	①⑤			⑤				
75	モチゲチチタケ(楯屋仮称)	<i>Lactarius</i> sp.			①				②	①	⑤	②
76	ハダいろチチタケ(下野仮称)	<i>Lactarius</i> sp.		①								
77	チチタケ属の一種	<i>Lactarius</i> sp.			⑥							
78	アカハツ	<i>Lactarius akahatsu</i> Tanaka										⑥
79	アカモミタケ	<i>Lactarius laeticolor</i> (S. Imai) Imaz. (nom. nud.)										①
80	アンズタケ	<i>Cantharellus cibarius</i> Fr.			⑥	⑥						
81	カレエタケモドキ	<i>Clavulina rugosa</i> (Bull.) J.Schröt.			③④							
82	ハイムラサキタンメンタケ(池田仮称)	<i>Clavulina</i> sp.			①			③				
83	キウロコタケ	<i>Stereum hirsutum</i> (Willd.) Pers.										
84	ハナウロコタケ	<i>Stereopsis burtiana</i> (Peck) D.A. Reid			⑥							
85	チシレタケ	<i>Plicaturopsis crispa</i> (Pers.) D.A. Reid										②
86	チャイボタケ	<i>Thelephora terrestris</i> Ehrh.					⑥	⑥				
87	アミスギタケ	<i>Polyporus arcularius</i> (Batsch) Fr.			①③④							
88	ミノタケ	<i>Trametes cervina</i> (Schwein.) Bres.			①		①					
89	カワラタケ	<i>Trametes versicolor</i> (L.) Lloyd							①			
90	ツチグリ	<i>Astraeus hygrometricus</i> (Pers.) Morgan			①				①			
91	ザラツキカワカワタケ	<i>Scleroderma verrucosum</i> (Bull.) Pers.							③			
92	ニセヨウロ属の一種	<i>Scleroderma</i> sp.			⑤		①					
93	アワタケ?(幼菌)	<i>Calvatia</i> cf. <i>craniformis</i> (Schwein.) Fr.		③								
94	ノウタケ属の一種	<i>Calvatia</i> sp.			③							
95	チビホコリタケ	<i>Lycoperdon dermoxyanthum</i> Vittad			①						③	③
96	ホコリタケ	<i>Lycoperdon perlatum</i> Pers.										
97	ホコリタケ属の一種	<i>Lycoperdon</i> sp.					④					
98	ヒメキクラゲ	<i>Exidia glandulosa</i> (Bull.) Fr.										①
99	ズキンタケ	<i>Leotia lubrica</i> (Scep.) Pers. f. <i>lubrica</i>			⑤				②			
100	クロアシボソノボリリュウタケ	<i>Helvella atra</i> J. König			⑥							
101	クロボリリュウ	<i>Helvella lacunosa</i> Afzel.			⑤⑥	⑥						
102	ゲラティンパルウェイネウラ属の一種	<i>Gelatinipulvinella astraeicola</i> Hosoya & Y. Otani			③							
103	葉ふるい病菌の一種	<i>Phacidium</i> sp.							①			

*数字は調査地のエリアを示す